

日本薬局方対応プログラムのご紹介

Introduction of Japanese Pharmacopoeia program

新しいフーリエ変換赤外分光光度計IRAffinity-1の発売に伴いバージョンアップしたIRsolution Ver1.40には、これまでオプションソフトであった「日本薬局方対応プログラム」が標準装備されました。

このプログラムは日本薬局方に沿った確認試験を簡便に行なっていただくためのソフトウェアです。今回はこの「日本薬局方対応プログラム」をあらためてご紹介いたします。

T.Tsuchibuchi

日本薬局方対応プログラム

Japanese Pharmacopoeia program

日本薬局方対応プログラムは確認試験のための3種類の機能を持ちます。

- ・ ピーク検出機能
- ・ スペクトル出力機能
- ・ レポート作成機能

測定したスペクトルの比較対象や評価方法により上記3つの機能を使い分けることができます。

ピーク検出機能

Peak Detection function

ピーク検出機能では測定した試料のスペクトルに対しその成分に対応したピークの検出を行ないます。ピークは最大10点まで指定できます。また、注意すべき波数をマーク波数として表示することもできます（最大4点）。試料スペクトルとその成分のピークテーブルを呼び出すだけでFig.1に示すような出力結果が得られます。確認試験の評価方法が、吸収波数による確認（指定されたピークの有無を確認）の場合に有効です。また、日本薬局方に掲載された参照赤外吸収スペクトルと比較する際にもお使いいただけます。

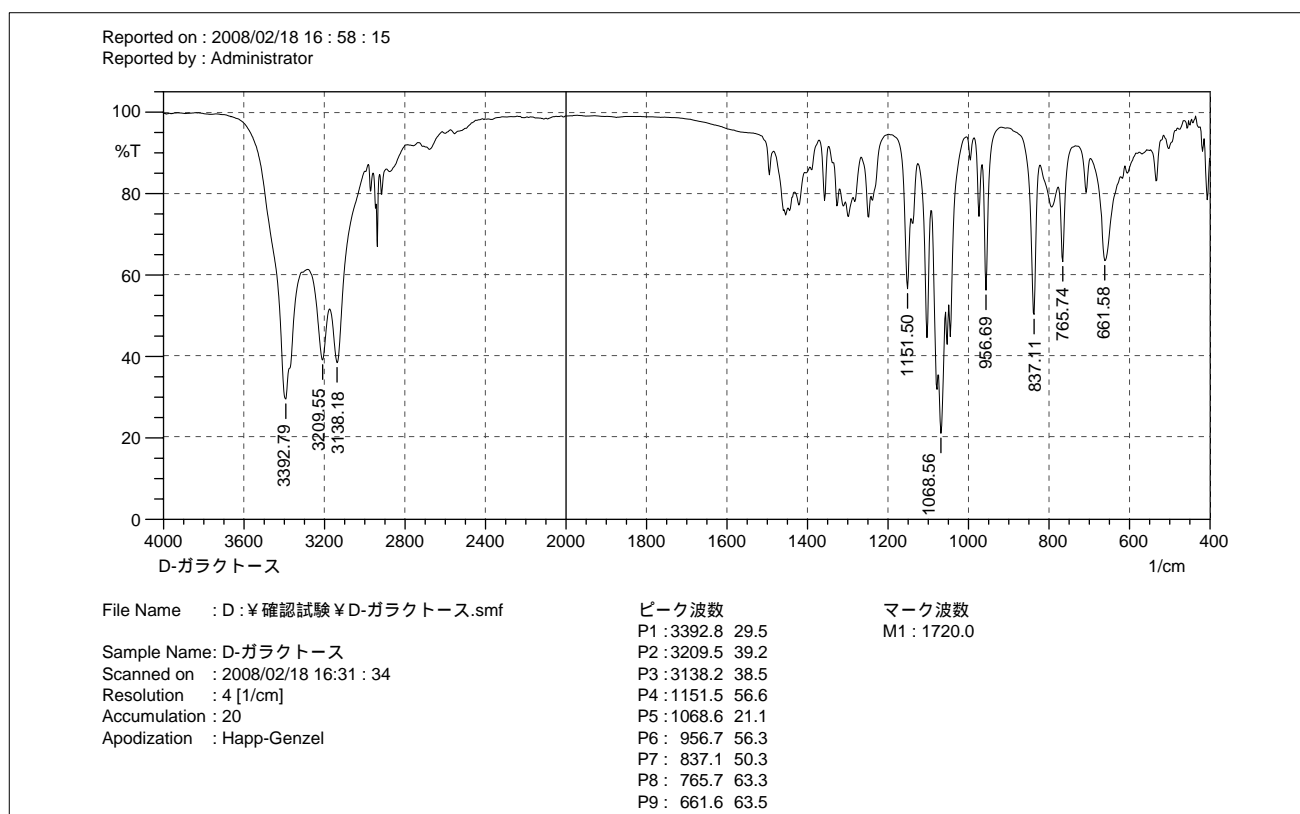


Fig.1 ピーク検出機能の出力例(D-ガラクトース)
Output example of Peak Detection function

スペクトル出力機能

Spectrum Comparison function

スペクトル出力機能では試料のスペクトルと標準試料のスペクトルとを並べて印刷します。日本薬局方の一般試験法赤外吸収スペクトル測定法に掲載されている確認方法では「試料の吸収スペクトルと標準品の吸収スペクトルを比較し、両者のスペクトルが同一波数のところに同様の強度の吸収を与えるとき試料と標準品の同一性が確認される。後略(*)」と記載されています。スペクトル出力機能ではこの試料と標準品のスペクトルの確認を目視にて行なう際にお使いいただけます。Fig.2に出力例を示します。上段が標準品、下段が試料のスペクトルとなります。

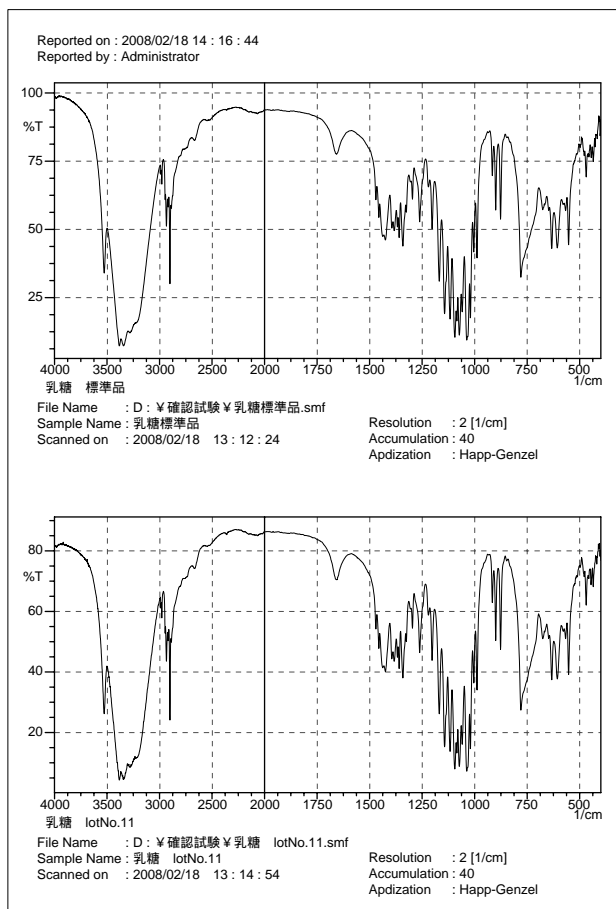


Fig.2 スペクトル出力機能の出力例(乳糖)
Output example of Spectrum Comparison function

レポート作成機能

Report Creating function

レポート作成機能では、上述の「スペクトルが同一波数のところに同様の強度の吸収を与えるとき」の部分により客観的にし、試料と標準品のスペクトルをピーク位置とピーク強度比を用いて比較した上で合否判定することができます。評価には最大10点のピーク位置とそのうちの最大4点のピーク強度比を用いることができます。ピーク位置と強度比の許容範囲は任意に設定することができます。試料及び標準品のスペクトルとその成分のピークテーブルを呼び出すだけでFig.3に示すような合否判定結果が得られます。

(*) 参照 第十五改正 日本薬局方 財団法人日本公定書協会編集

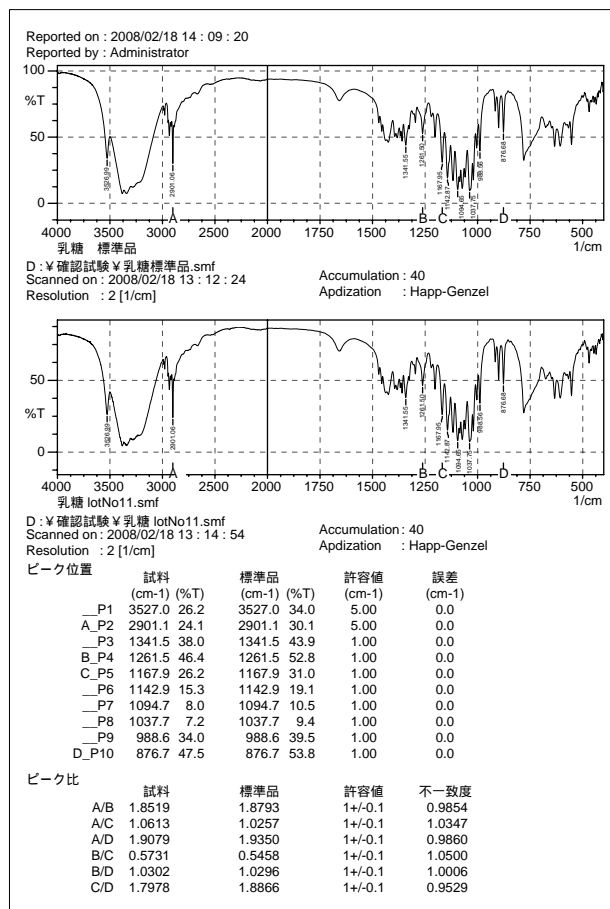


Fig.3 レポート作成機能の出力例(乳糖)
Output example of Report Creating function

初版発行：2008年3月

 **島津製作所** 分析計測事業部
応用技術部

島津分析コールセンター

●0120-131691(携帯電話不可)
●携帯電話専用番号(075)813-1691

本資料は発行時の情報に基づいて作成されており、予告なく改訂することがあります。改訂版は右に示す島津WEBで閲覧できます。

会員情報提供サービス「Shim-Solutions Club」にご登録下さい。
<http://solutions.shimadzu.co.jp/>
いろいろな情報提供サービスが受けられます。

3100-03802-660-1K
2008.3